
ココロの底

せいな

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「口の底

【著者名】

せいな

N6025A

【あらすじ】

新一と「ナンガ」がいなくなってしまった時の蘭の気持ちを書いてみました。

(前書き)

初めて書いたので、文章はめちゃめちゃかもなのですが、よんでもうただけると嬉しいです。

大好きだよ。私、新一のマスクの底から愛してるよ。

あなたの出会いは私の記憶にないけれど、あなたの別れはなぜいつも鮮明に私の記憶に刻みこまれているのだろうか。楽しい時間を思い出すたび、あなたを失った悲しみがこみあげてくる。

新一、さよならなんていわないで。私はあなたのマスクを、こんなにも愛しているの。』

～3カ月前～

それは突然の電話だった。
『もしもし、蘭。俺だ。
あんなあ、俺もう蘭のトコロに帰れそうもない。だから、もつ俺のコト待たないでくれ。
でも、もしさまた会えたら、きちんと話がしたい。
本当に俺、自己中だな。。。』

『待たなくていいってどうゆうこと...私は、待つことやめも許されないの？？？なんで？？？なんでなの？新一...！』

『本当にゴメンな、』

たつたそれを最後に新一との連絡は途絶えてしまった。丁度同じ日に私の家で暮らしていたコナン君も自分の家へと帰つていってしまった。

寂しい日々はいつやって来て来た。

そして今日は、私の誕生日だ。でも、いつもと同じ24時間に変わりない。

ただ、いつも以上に彼を思い出してしまつコト以外は、

「ピ～ンポ～ン～

家のチャイムがなつた。

時間は、まだ朝の5時30分。誰だろ。。。

ドアへと近付くと自然に涙が溢れだした。

『～～、新一？』

『俺、蘭のことが本気で好きだ。だから、このまま聞いてくれ。顔みると泣いちまいそうなんだよ。』

『～～、バカ。新一のバカ！～今までなにしてたのよ。どれだけ悲しい思いしたと思ってるの。。』

『わるかつた。でも、3カ月前までは、お前をいつも一番近くで見守つてたんだ。。』

その時私は、コナン君が新一で、黒の組織との戦いのために3カ月の間、私に連絡がとれなかつたこと、そして黒の組織から私を守るために、私との連絡を断ち切つたことを聞かされた。

今日は私の誕生日。プレゼントは今田までの悲しみさえも喜びにかえてしまつ、不思議な力をもつた彼。

大好きだよ、新一。だから、もうさよならなんていわないで。。。

(後書き)

読んで下さって本当にありがとうございます。
いかがでしたでしょうか？

やはり小説を書くのは難しいですね。。。
頑張ったんですが小説にすらなりませんでした。泣

繰り返しになりますが、ここまで読んでいただき本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6025a/>

ココロの底

2010年10月11日01時34分発行